

令和3年度 製造現場への AI・IoT導入 促進補助金

募集

します

募集期間

5月14日
(金)

～

6月25日
(金)
17時必着

滋賀県内の製造施設においてAI・IoTを活用した仕組みを構築し、経営の改善につながる取組みを対象とした補助事業です

裏面の昨年度採択事例も参照ください

補助金額 1件あたり

補助率

150万円以内 1/2以内

対象者 滋賀県内に生産拠点を有する中小企業者

事業期間 交付決定日～令和4年2月末

募集要項等 <https://www.shigaplaza.or.jp/hojokin-iko-210514-0625/>



公益財団法人

滋賀県産業支援プラザ



(公財) 滋賀県産業支援プラザは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

<問合せ先>

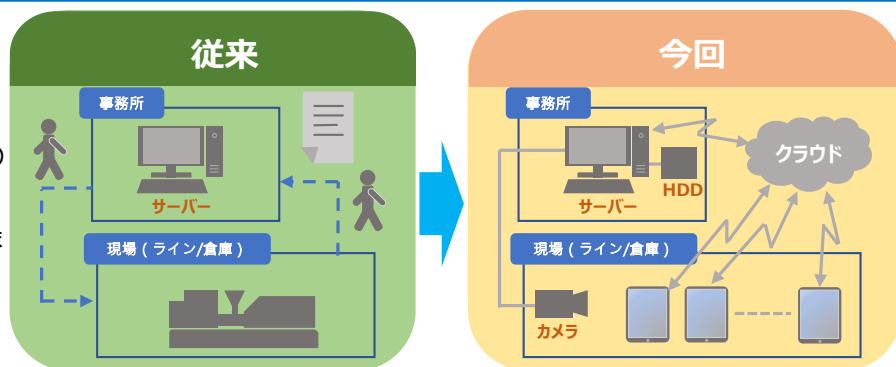
連携推進部

TEL (077)

511-1424

昨年度採択事例① 「社内生産管理システムのクラウド化」

■従来は、各現場から事務所にきてサーバーに入力が必要であり、現場の情報把握も現地に出向く必要があった。また、不具合発生時の原因説明も困難であったが、今回の責任者への専用端末付与と生産管理システムのクラウド化及び現場へのカメラ導入による作業画像の記録により、業務効率化やペーパーレス化、不具合発生時の映像解析による原因究明等の効果があった。



成果

- ・生産計画等は現場で紙で管理し、日報は事務所に移動して入力し直していたが、クラウド化により現場で直接入力し、どの場所でもデータ閲覧が可能となった。
- ・会議の際は、生産計画をすべて紙で配布しており、微細な変更があっても、再配布していたが、会議出席者は各自の端末でデータを参照でき、議事録配布も不要となり会議に関しては完全ペーパーレス化が実現できた。
- ・不具合発生時は、原因を特定できず、推定で対策を立てざるを得ないことがあり、クロージングまでの工数・時間が掛かったが、映像記録により原因究明・対策が容易になった。

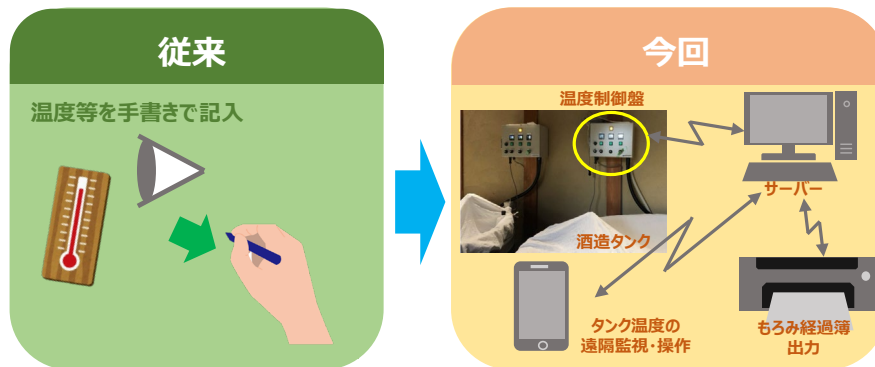
⇒カメラ導入後に発生した異品混入による不具合案件はラベル連番と日付から発生時間を特定し、ピンポイントでカメラ映像を確認したところ、管理者が抜き取り検査品を戻す際に箱を間違えたことが判明。10分で原因究明が出来た。

今後の展望

- ・今回の取組みで社員の仕事の取組み方が変わって来ており、今後は外部研修も活用し、技術者の養成や管理者のスキルアップを進める。また映像は不良原因特定だけではなく、作業者の動作解析や異常検出等、改善活動にも活用していく。

昨年度採択事例② 「日本酒タンク温度の遠隔モニタ・制御及びもろみ経過簿の作成支援による作業効率化」

■従前は、随時、情報を手書きで記載することでタンク毎のもろみ酒のデータを管理していた。本事業によって開発されたシステムでは、タンクに取り付けられた温調器からのデータをサーバー機で一元管理し、取り込んだ情報をスマートフォン等にてリアルタイムに閲覧、温度設定が遠隔操作にて可能となった。また、自動収集や入力されたデータはもろみ経過簿として出力が可能となった。



成果

- ・収集したデータをリアルタイムで監視すると共に、経過グラフにより醸造責任者の品温管理にも利用できる。
- ・自動収集や入力されたデータは作業完了時にもろみ経過簿として出力可能であり、これらを記録として保存することで過去にさかのぼり情報の確認が可能となった。
- ・作業時間が大幅に短縮された。(約120時間/月)
- ・リアルタイムにもろみの状況把握が可能となり、醸造責任者が出張等で不在にしている時でも、通常時と変わらない円滑な清酒製造業務が可能となった。

今後の展望

- ・醸造責任者の社長が、営業等対外的な取り組みを積極的に行える体制作りを進め、その結果として、売上・利益が拡大していくことを目指す。
- ・酒造りの現場においても、紙媒体であったデータや資料のデジタル化により、情報が集約・整理され、今後の酒造りの際に過去の詳細データをベースにして酒造りを始めることができ、高品質な酒を安定的に造っていくことが可能となる。またデータを継続して蓄積していくことで、さらに情報精度が上がり、その結果、より高品質な商品を提供していくことができると思われる。